

インターポート

兵庫教育文化研究所だより

No.235

2025年2月12日

発行所 兵庫教育文化研究所

〒650-0004

神戸市中央区中山手通 4-10-8

技を組み合わせて跳ぼう！

保健・体育部会

授業研究会

保健・体育部会では、川西市の小学校において授業研究会を実施しました。3年生の体づくり運動における「なわとび」で、子どもの多様な動きを引き出せるように授業の単元構成を考えました。また、なわとび=季節限定ではなく、普段からとりくみたいと思える意欲を高める手立て・どの子ども自分の目標にむかってチャレンジできる支援を授業の柱とし、本時は「一人ひとりのよさや特長をいかして、チームで組み合わせ技を考えて練習しよう」をめあてに設定してとりくみました。

はじめに、アップテンポの1曲めが流れるとチームごとに練習内容を決めてアップをしました。1人技、2～3人技、チーム技を組み合わせたたり、大縄と短縄を組み合わせたたりしながら必要なメニューを選択・決定していました。2曲めが流れると、個人で練習している技を組み合わせて練習します。一例をあげると、リリースキャッチ→前跳び→グーパー跳び→あや跳び→ケンパ跳び→二重跳び→クロス止めのような組み合わせです。リズムに乗りやすく技のチェンジがしやすいように4回または8回跳んで技を交代するように設定をしました。

次に、本時のめあてや今までのポイントをクラスで確認した後、チームにわかれて組み合わせ技を話し合いながら練習をしました。例えば、「トラベラー」という技を入れるチームは、回す人と跳ぶ人が同じタイミングでジャンプを続けてから、声をかけ合いながらスタートのタイミングを揃えていました。他にも、タブレットを活用して動きをふり返り、気づきを共有しながらブラッシュアップをめざすチームがありました。紹介した技だけでなく、自分たちで考えた動きも新しいなわとびの技に入れていて、より一層チームに合わせたオリジナルの組み合わせ技をめざして練習をすすめていきました。



単元のまとめには、個人技・チーム技を組み合わせた発表会を予定しています。どの子ども活躍できる発表会にして、チームを超えてクラス全体のチームワークが強まるなわとび学習にしていければと思います。

事後研究会では、①運動の特性にふれながらとりくめたか、②関わり合いながら高め合うことができたか、③子どもどうしをつなぐ教員の声かけの3つを柱にしながら、研究所員でたくさん意見交流をし、時間を忘れるほど充実した会となりました。曲の使いわけやメトロノームの活用、子どもの考えやとりくみを受容し価値づけることが子どもの自信とやる気を育むことになる、あそびから生まれる多様な動きの広がりなど、話をしているとは気づかされる言葉がたくさんありました。

また、体育の運動面だけでなく、保健の研究所員（養護教員）から、保健室からの視点や安全面や危険予測に関する考え方についても様々な意見をもらいました。

中でも一番心に残っていることは、「誰一人取り残さない授業づくりをしていこう」というメンバー総意の言葉です。保健・体育部会では、

『子どもたちみんなが楽しみながら力を伸ばせる保健体育授業づくり』

～生涯にわたって運動に親しむ心を育てる～

ことを研究主題にしています。これからも、日々研究をする中で、生涯にわたって運動に親しむ子どもたちを育てていきたいと思っています。

(本授業の授業案は「組合員専用ページ」⇒「各部会研究授業 指導案等」に掲載しています。ID・パスワードは各地域組合へお問い合わせください。)

★兵教組 HP 組合員専用ページ⇒

